

平成26年度日本小児外科学会
第6回定例理事会議事録

日 時：平成 27 年 3 月 30 日（木） 11：00～16：00

会 場：日本外科学会会議室

出席者：仁尾正記（理事長）、黒田達夫（副理事長）、濱田吉則（前会長）、前田貢作（理事・会長）、田口智章（理事・副会長）、北川博昭、窪田正幸、松藤 凡、八木 實、漆原直人、米倉竹夫（以上理事）、岩中 督、菘澤融司（以上監事）、菱木知郎（庶務委員長）、渡井 有（財務会計委員長）、吉澤穰治（財務会計副委員長）、田中 拡（庶務委員）、尾藤祐子（庶務委員）、堀口裕輔（事務局）

欠席者：小室広昭（庶務副委員長）

議事案件：

議 事：

1. 第6回定例理事会の議事録署名人は、窪田正幸理事、漆原直人理事とした。
2. 平成26年第5回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。
3. 報告事項

1) 理事長報告（仁尾理事長）

仁尾理事長より以下の報告があり、了承された。

- (1) 医学書院からの寄贈本「医学研究者名簿 2014-2015」を受領した。
- (2) 日本製薬工業協会からの寄贈本「製薬協ニューズレター Vol.165～166」を受領した。
- (3) 厚生労働省医薬食品局からの寄贈本「医薬品・医療機器安全性情報 No.320」を受領した。
- (4) 医療機器産業連合会からの寄贈本「医機連ニュース Vol.88」を受領した。
- (5) 日本学術振興会からの通信文「平成 26 年度育志賞の受賞決定について」を受領した。
また、「平成 27 年度育志賞受賞候補者の推薦について」を受領し、ホームページへ掲載することとなった。
- (6) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY Vol.45No.2～3」を受領した。
- (7) 外科関連学会協議会からの通信文「新規加盟学会のお知らせ」につき、仁尾理事長より報告された。
- (8) 東京女子医科大学母子総合医療センターからの寄贈本「周産期医療の質と安全の向上のための研究(周産期診療ガイドライン)」を受領した。
- (9) 日本家族計画協会からの通信文「成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業発表会開催のご案内」を受領した。
- (10) 日本小児科医会からの寄贈本「日本小児科医会会報第 47 号」を受領した。
- (11) 外科関連専門医制度委員会からの通信文「第 55 回総会議事録案」につき、黒田副理事長より報告された。
- (12) 日本肝臓学会からの寄贈本「50 周年記念誌 50 年のあゆみ」を受領した。
- (13) 日本医師会からの通信文「JMA ジャーナル電子化への移行お知らせ」を受領した。
- (14) 日本医療機能評価機構からの寄贈本「NEWS LETTER 3 月号」を受領した。

- (15) 難病子ども支援全国ネットワークからの寄贈本「がんばれ！Vol.149」を受領した。
- (16) 第 60 回日本生殖医学会学術講演会からの通信文「市民公開講座開催のご案内」を受領した。
- (17) 日本医学会からの通信文「第 18 回日本医学会公開フォーラム案内」を受領した。
- (18) 厚生労働省大臣官房統計情報部からの通信文「疾病、傷害及び死因の統計分類の改正に関する告示」を受領した。
- (19) 日本医学会連合からの通信文「第 3 回理事会・平成 26 年度臨時総会 経過報告」について黒田副理事長より、資料に基づき、経過報告、特に日本医学会連合役員選任規定に関して、進捗状況が報告された。
- (20) 日本医学会からの通信文「平成 26 年新規加盟学会」について仁尾理事長より報告された。
- (21) 厚生労働省医薬食品局からの通信文「献血血液の研究開発等での使用に関する指針の一部改正について」を受領した。
- (22) 神奈川県医師会からの寄贈本「神奈川医学会雑誌 第 42 巻 1 号」を受領した。
- (23) さいたま市経済局経済部産業展開推進課からの通信文「さいたま医療ものづくりフォーラム 2015 後援名義使用報告書」を受領した。
- (24) 日本医学会からの寄贈本「医学雑誌編集ガイドライン」を受領した。

2) 総合調整委員会報告（黒田委員長）

黒田委員長より、資料に基づき、報告および提案があり承認された。

- ・ 指導医の認定基準については現在の水準を保つことに関しては概ねの合意を確認した上で具体的な認定の条件について議論がもたれ、以下の点についての合意が得られた。

◆手術の難易度別に階層を儲ける。

◆いわゆる「メジャー手術」と新生児手術について、従来通り各資格条件に求める。さらに指導医認定条件について以下の意見が提案され、専門医制度委員会が中心となりサブスペシャリティー指導医の資格条件についての具体的な改定案を作成することになった。

- もはや施行されることがほとんどない手術の削除を検討するべきである。
- 難易度の高い手術を設定するために実際に実施されている手術数を、NCD データをもとに割りだして参考にすべきである。
- 1 例のみ必要、という条件は廃し疾患群として手術経験数を問うべきである。
- 一つの領域に極端に集中するのではなく、全体のバランスを考慮した基準の改定案を策定する。
- 同一術式の上限は求めるべきである（現行では 4 例）。
- 同じ手術でも年齢や患者の重症度によって難易度が異なることがあるので、ひとくくりに同一の難易度手術に含めて良い否かについても議論が必要である。
- 新生児期にメジャー手術を行った場合、メジャー手術・新生児手術双方に数えるが、トータル数としては 40 症例をもとめる、というような柔軟性を持たせるべきである。
- 小児がん治療施設が拠点化されたため、悪性腫瘍摘出術の手術経験を得られな

い人が多くなる可能性があり、対応が必要である。

- 指導医の位置付けについては、実質上小児外科認定施設を規定することになるため、その施設に来た患者はその施設で治療できる、というスキルを持つ外科医である。
- ・ 教育関連施設と新機構における専門研修指導医・研修連携施設のあり方について、教育関連施設には専門医の在籍を条件とすることが提案されているが、小児外科専門医の関与した施設をできるだけ拾い上げるため、専門医の在籍は非常勤という形態でも許容し、手術をある一定数（案として50例）施行している施設を教育関連施設の条件に定める案が検討され、継続審議事項となった。
- ・ NCD-Pediatric（以下NCD-P）の維持・運用にあたり、認定施設・教育関連施設にデータ管理責任者を設置し、年1～2回（学術集会・秋季シンポジウムなど）に合わせて運用に関する説明とヒアリングを行う会議を開催する提案がされ、審議の結果、以下の3点が承認された。
 - NCDにおけるデータの信憑性を高めるために、入力者の質をあげることは必要である。
 - 各施設に入力責任者（データ管理責任者）を設置し、faculty developmentを行うべきである。最初の機会として本年5月の学術集会の際に会議を開催する。各認定施設への案内送付については、時間が限られているため早急に行うことが望ましいため、理事会での事後承諾の形とする。
 - 講師の講演料、交通費、会場費については学会本体の負担とする。
- ・ 開業医の小児外科専門医について、更新の維持が困難であることが指摘され、今後対応策について、評議員会等で広く意見確認をしつつ、継続審議することとなった。
- ・ 学術集会での二重発表については、学術集会プログラム委員会にて申し合わせ案を作成することになった。

3) 日本小児連絡協議会（四者協）報告（田口副会長）

田口副会長より、資料に基づき、日本小児連絡協議会（四者協）における進捗状況が報告され、了承された。

また、電子母子健康手帳標準化委員会へ日本小児外科学会からも委員を派遣することが提案され、審議の結果、黒田副理事長を委員とすることが承認された。

4) 日本小児科学会小慢委員会報告（田口副会長）

田口副会長より、資料に基づき、小慢委員会における状況、特に指定難病に関する要望の進捗状況が報告され、了承された。

5) 健やか親子21報告（北川理事）

北川理事より、資料に基づき、健やか親子21（第2次）の活動テーマに関する意向調査の回答内容が報告され、了承された。

4. 審議事項

1) 第51回学術集会開催報告（濱田前会長）

濱田前会長より資料に基づき、開催会計報告がなされ、承認された。

- 2) 第30回秋季シンポジウム開催報告（西島会長欠席により前田実行委員長）
前田実行委員長より資料に基づき、開催会計報告がなされ、承認された。

3) 第52回学術集会について（前田会長）

前田会長より資料に基づき、プログラム案が提案され、承認された。

また、参加費について、開催規模が大きくなっていることからその経費の関係で、従来の15,000円から18,000円に値上げすることが提案され、審議の結果、承認された。

日時：平成27年5月28日（木）、29日（金）、30日（土）

会場：神戸国際会議場

テーマ：全ては子ども達の笑顔のために：Challenge and Care

理事会、評議員会：平成27年5月27日（水）

評議員懇親会：5月27日 会員懇親会：5月29日

3) 第53回学術集会について（田口副会長）

田口副会長より資料に基づき、以下スケジュールの報告があり、引き続き検討することとなった。

日時：平成28年5月24日（火）、25（水）、26（木）

会場：ヒルトン福岡シーホーク

テーマ：「わ」をもって尊しとなす—小児外科医療の和・輪・倭—

※卒後教育セミナーの開催日程について、同時開催のIPEGとの日程調整により、従来の学術集会終了後の開催ではなく、5月22日（日）および23日（月）午前にて開催予定とする。

3) 庶務委員会（菱木庶務委員長）

菱木庶務委員長より、資料に基づき報告がなされ、承認された。

- ・ 2015年2月末現在の会員数は、評議員を除く正会員1,914名（うち海外3名）、評議員317名、名誉会員53名（うち海外8名）、特別会員66名（うち海外1名）の合計2,350名である。
- ・ 規約委員会については現在委員候補者を選定中であるが、常設の委員会とするかどうかにつき、提案があり、審議の結果、承認された。なお、第52回学術集会時の評議員会において、次期執行体制では規約委員会を常設委員会とする趣旨を上程することとなった。

4) 財務会計委員会（渡井財務会計委員長）

渡井財務会計委員長より、資料に基づき報告がなされ、承認された。

- ・ 2015年度決算（暫定）について、資料に基づき報告された。

- ・ 2016年度予算(案)が報告され、2015年度決算が確定次第、改めて調整し、理事会に諮ることとなった。なお、現時点の見通しで130万円程度の赤字に再び転落する可能性も説明され、更なる支出削減のための意見が出された。
- ・ 専門医制度における認定証につき、製作方法を現状の品質をある程度維持しつつ、安く手配できるような方法(筆耕ではなく印刷とする等)が提案され、見積りを確認の上、継続審議となった。
- ・ 次期執行体制からは理事会資料について、印刷を最小限に抑える方法として紙媒体でなく、データ(pdf等)で準備する方法が提案され、試験的に導入することが承認された。
- ・ 評議員会資料についても印刷を最小限に抑える方法として、各報告資料を必要最小限に抑えることが提案され、承認された。
- ・ 学会支援機構との業務委託契約について、専門医制度業務の文言追加が提案され、承認された。

5) 各種委員会報告

(1) 国際・広報委員会報告(仁尾理事長)

仁尾担当理事より、資料に基づき、以下報告・提案があり承認された。

- ・ 全会員宛の会員ニュースを2月から配信開始(月1回予定)とした。
- ・ 各委員会からの情報周知要望についても、会員ニュースを活用することが改めて確認された。

(2) 機関誌委員会(北川担当理事ご欠席により仁尾理事長)

北川担当理事より、資料に基づき、以下報告・提案があり承認された。

- ・ 2015年度の優秀論文賞として以下2論文が推薦され、承認された。
 - ◆原著6号 気管支閉鎖症に関連した肺嚢胞性病変の病理学的解析—特にCCAMとの関連性について— 小森 広嗣先生東京都立小児総合医療センター外科
 - ◆症例報告5号 右肺低形成・left pulmonary artery sling・bridging bronchusを合併した先天性気管狭窄症に対してスライド気管形成術を施行した1例 大片 祐一先生 兵庫県立こども病院外科
- ・ メディカルオンラインWEB掲載について、検討の結果、導入の利点が多くないため保留とする。
- ・ 今後の機関誌(和文誌および英文誌)の在り方について、アンケート集計結果が示され、以下内容が承認された。
 - ① 第52回学術集会の抄録集については、従来通り紙媒体で作成し、事前に会員へ送付することとなった。
 - ② 第53回学術集会以降の抄録集については、デジタル媒体で作成し、会員へ事前発送をしない方向性が確認された。
 - ③ PSIの購読方法について、審議の結果、近未来に年会費値上げが避けられない現状から鑑み、2015年度評議員会において、今回のアンケート結果とともに、

2016年度以降におけるPSI購読方法の変更に加え、会員年会費値上げを審議予定である旨、周知することとなった。なお、評議員は原則としてPSIを購読するものであることを2015年度評議員会にて確認周知することとなった。

- ④ サブスペシャルティ領域の各学会年会費を事務局にて調査し、追って報告することとなった。

(3) 保険診療委員会（窪田担当理事）

窪田担当理事より、資料に基づき以下報告があり承認された。

- 日本小児科学会小慢委員会より小児慢性特定疾病の中から、すでに指定難病の候補になっているものも含め、指定難病として認定すべき小児外科疾患の候補を選定する作業依頼があり、下記27疾患を指定難病の候補として小児慢性疾患委員会へ返答した。

慢性腎疾患群：膀胱尿管逆流（下部尿路の閉塞性尿路疾患による場合を除く）

慢性呼吸器疾患群：気道狭窄、リンパ管奇形、先天性横隔膜ヘルニア

内分泌疾患群：先天性高インスリン血症

神経・筋疾患群：仙尾部奇形腫

慢性消化器疾病：家族性腺腫性ポリポーシス、潰瘍性大腸炎、クローン（Crohn）病、急性肝不全（昏睡型）、新生児ヘモクロマトーシス、胆道閉鎖症、アラジール（Alagille）症候群、肝内胆管減少症、進行性家族性肝内胆汁うっ滞症、先天性胆道拡張症、先天性門脈欠損症、遺伝性膵炎、短腸症候群、ヒルシュスプルング病、慢性特発性偽性腸閉塞症、巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症、腸管神経節細胞僅少症、難治性巨大肝血管腫、総排泄腔遺残、総排泄腔外反症

染色体又は遺伝子に変化を伴う症候群：Beckwith-Wiedemann症候群

- 平成28年度診療報酬改定に向けた今後の予定として、当学会から要望する12項目のうち、処置における小児加算について、日本周産期・新生児医学会の要望が重複と判定され、本件は日本小児外科学会が主学会として取りまとめることとなった。また、改定要望予定の腹腔鏡下胆道閉鎖症手術について、医材料調査結果（19例）を報告し新規術式として外保連手術試案第8.3版へ掲載することが承認された。
- 日本小児期外科系関連学会協議会は日本小児総合医療施設協議会（JACHRI）と合同で平成28年度診療報酬改定要望を提出するものとなり、日本小児総合医療施設協議会から要望予定の下記7項目を踏まえて、要望項目を選定作成準備することが報告された。

PICU算定加算年齢の中学生（15歳）までの延長

NICU/PICUからの転入患者受け入れ病院での診療報酬の増額

レスパイト入院時の加算の増額

緊急手術加算の増額

障害児算定上限の引き上げ

NICU退院調整加算の要件緩和

総合入院加算体制加算要件に小児施設用基準の追加

(4) 教育委員会（松藤担当理事）

松藤担当理事より、資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・ 第31回卒後教育セミナーおよび第6回内視鏡手術セミナーのプログラム案が提案され、承認された。
- ・ 日本小児外科用語集の改訂・デジタル化について、今後の改訂作業のために、pdf化したデータをホームページへ掲載することとなった。
- ・ 学生・研修医等の紹介システムの構築として、卒前教育（小児外科講義を行うための学会から教官派遣や実習施設の紹介とその窓口の設置）と卒後研修（小児外科研修を希望する研修医への相談窓口の設置）を想定し、継続審議となった。

(5) 悪性腫瘍委員会（米倉担当理事）

米倉担当理事より、資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・ 第2回小児・思春期・若年成人がん関連学会連絡協議会につき、資料に基づき、報告された。
- ・ 悪性腫瘍委員会登録データを利用した「神経芽腫マス休止後変化」について、SIOPでの報告希望（大阪市立総合医療センター 米田光宏先生）があり、メール審議の結果、承認した。

(6) 学術・先進医療検討委員会（八木担当理事）

八木担当理事より、資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・ 新生児外科全国アンケート調査については、PSIのJapanese issueに発表できるように、演題に応募し、論文を投稿した。
- ・ 科研調査について、小児外科の科研採択率の報告のための全国調査を行っていたが、採択率は科研のホームページに公開されるようになっており、全国調査の中止が第5回理事会で承認された。そのため、学会ホームページから学術振興会の科研採択率の画面にジャンプアクセスできるように国際広報に依頼し、ジャンプアクセスが可能になった。
- ・ 会員対象のアンケート調査依頼の審査および認可
 - ① 平成27年1月29日に平成26-28年度厚生労働科学研究補助金（難治性疾患克服研究事業）「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究」に関する研究班から「Hirschsprung病に関するアンケート全国調査」について審議依頼があり、当委員会の2回の審議の結果を経て平成27年2月12日に承認された。
 - ② 平成26年1月31日に小児ストーマ研究会装具等検討委員会委員、中原さおり先生から「超・極低出生体重児のストーマケアに関するアンケート調査」について初回の依頼あったが不承認となった。平成27年2月6日に再審議依頼があったが、再度検討していただくこととなり、その内容を平成27年2

月 13 日に中原さおり先生に通知した。

- ③ 平成 27 年 2 月 25 日に名古屋市立大学病院 小児・移植外科 近藤 知史先生より「漏斗胸と OSAS (Obstructive Sleep Apnea Syndrome) 閉塞性睡眠時無呼吸症候群に関するアンケート」について依頼があり審議した結果、再度検討となり、3 月 4 日に再審議となり 3 月 10 日に承認され近藤 知史先生に通知した。
- ④ 平成 27 年 2 月 26 日にロサンゼルス小児病院の宮田 真医師より本学会に依頼のありました「小児外科研修における症例数と主観的習熟度の相関に関するアンケート調査」について審議し、再度検討していただくこととなり、その内容を 3 月 10 日に宮田 真医師に通知した。
- ・ 他の学会、研究班からの診断基準、重症度判定、ガイドラインなどの評価および承認依頼
 - ① 平成 27 年 2 月 10 日理事会より「小児慢性機能性便秘診療ガイドライン」の当学会ホームページ掲載についての審議依頼があり、審議の結果、特に問題点はなく 2 月 12 日に承認され、ホームページ掲載となった。
 - ② 平成 27 年 3 月 17 日小児慢性特定疾患治療研究事業対象疾患「診断の手引き」作成で日本小児科学会小児慢性特定疾患委員会担当の疾患概念のうち「胆道閉鎖症」および「先天性胆道拡張症」について成人期以降の注意点について追記が行われたため、担当委員会（東北大学大学院医学系研究科小児外科学分野 仁尾 正記先生、佐々木英之先生）より、その追記内容についての審議依頼があり、審議の結果 3 月 23 日に承認された。
- ・ 会員以外の団体や個人からのアンケート調査依頼に関して、現在のところ学会に規定がない。現在の「全国規模の学術アンケート調査に関する規定」の改訂案や他団体からのガイドラインなどの審議基準についての規定案を新規作成し、平成 27 年 5 月の学術集会で開かれる理事会に提出を予定している。

(7) 倫理安全管理委員会（漆原担当理事）

漆原担当理事より、以下報告・提案があり承認された。

- ・ 院内医療事故調査委員会の外部委員派遣依頼があり、日本医療安全調査機構医療の事故評価委員として選定の上、推薦した。
- ・ 倫理安全委員会便りの最新号をホームページへ掲載した。
- ・ 医療法施行規則の一部を改正する省令案に関する意見の募集について、ホームページにリンクを掲載することが提案され、承認された。
- ・ 医療倫理安全管理・利益相反講習会
日時：平成 27 年 5 月 28 日(木) 17:00～18:00
主催：日本小児外科学会 利益相反委員会、倫理・安全管理委員会
会場：神戸国際会議場 メインホール（第一会場）
講師：田中信一郎先生(国立病院機構徳島病院 病院長)
テーマ：「医師側からみた医療安全」

- ・ 感染対策セミナー

日時：平成 27 年 5 月 29日(木) 17:30～18:30

主催：日本小児外科学会 倫理・安全管理委員会

会場：神戸国際会議場 メインホール（第一会場）

講師：竹末芳生先生(兵庫医科大学感染制御学教授、感染制御部部長)

テーマ：「手術部位感染(SSI)予防対策」

(8) データベース委員会（米倉担当理事）

米倉担当理事より、以下報告・提案があり承認された。

- ・ 入力が遅延されていた新生児症例についても3月1日より登録が可能となり、全ての2015年 NCD登録が開始された。
- ・ 小児外科領域においても医療品質評価項目（2階建て部分）の入力が開始された。これにより他領域と同様にrisk-adjusted clinical dataによる分析やrisk calculatorの運用なども可能となり、小児外科領域の医療の質の改善に結びつけることができるようになる。そこで日本小児外科学会認定施設および教育関連施設に患者データ管理責任者・患者データ入力責任者・患者データ入力作業担当者を設定していただき、その方々を対象にNCD-小児外科領域会議を開催し、情報発信を行うことが提案され、承認された。
- ・ 小児外科としてNCDへの追加術式の要望リストが資料に基づき提案され、承認された。
- ・ 日本小児外科学会が収集した臨床データ取扱い規程・規程内規（案）について、最終版が報告され、評議員会に諮ることが承認された。
- ・ 2011、2012年NCDアニュアルレポート（小児外科領域）分析依頼項目（案）が提案され、承認された。この結果についても、NCD-小児外科領域会議にて報告をする予定である。
- ・ 2014年度小児外科-NCD術式対応表について、専門医制度委員全員での事前確認は時間的に困難であるため、今回に関しては専門医制度委員会両委員長および黒田専門医制度庶務委員長にて確認し、問題無ければその内容で進めることが提案され、承認された。
- ・ 川瀬弘一先生からのNCD調査研究申請書（虫垂炎データの再申請）と再審議結果が報告され、承認された。

(9) 小児救急検討委員会（松藤担当理事）

松藤担当理事より、以下報告・提案があり承認された

- ・ 第5回小児救急セミナーはテーマを「小児生殖器の救急 ～急性陰嚢症と卵巣捻転～」として検討しており、テーマをもう少し分かりやすいもの変更の上、ホームページ上で募集を開始することとなった。
- ・ PALS講習会について、学術集会期間に併せて開催せずに単独開催を目的にプログラム案が資料に基づいて、提案され、承認された。

- ・ 自動車車中の子どもの安全推進合同委員会について、資料に基づき、報告され、承認された。

(10) ワークライフバランス検討委員会（窪田担当理事）

窪田担当理事より、以下報告があり承認された。

- ・ WLB 検討委員会オープンセミナーを第 52 回学術集会にて開催することが資料に基づき提案され、承認された。講師招聘状は事務局より送付することとなった。
日 時：平成 27 年 5 月 29 日（金）午後
場 所：神戸国際会議場
講 師：森 桂 氏（厚生労働省医政局 医師臨床研修専門官）
テーマ：「小児外科学会における男女共同参画とクオータ制について」
- ・ 委員会英文名称案として、Committee for work-life balanceについて、ネイティブの語彙チェックをし、問題ないことが確認されたため、決定することとなった。

(11) トランジション検討委員会（八木担当理事）

八木担当理事より、以下報告があり承認された。

- ・ 移行支援ガイドブック（医師版）案が資料に基づき、報告され、さらに審議確認を進めることが承認された。
- ・ 現在、特別委員会であるトランジション検討委員会について、業務の重要性より次期執行体制では、常設委員会とすることが提案され、承認された。なお、その場合には、現在の活動における継続性を考慮していくことが確認された。

8) 選挙管理委員会報告（菱木委員長）

菱木委員長より、以下の通り報告・提案され、承認された。

- ・ 3月5日に第3回選挙管理委員会を開催、選挙管理委員会立会いのもと開票を行った。
- ・ 有権者数 2,006 名、投票総数 1,717 票、有効投票数 1,717 票となり、開票結果は当選者 306 名、落選者 61 名となった。

9) 名誉会員・特別会員推戴について（仁尾理事長）

審議の結果、以下の 5 名を本年度推戴候補者として評議員会に諮ることとなった。

名誉会員推戴候補者：窪田昭男先生

特別会員推戴候補者：石田和夫先生、西島栄治先生、連 利博先生、渡邊芳夫先生

10) 他学会からの委嘱評議員制度について（仁尾理事長）

仁尾理事長より、資料に基づき、従来実施してきている日本小児麻酔学会との委嘱評議員制度につき、継続していくかどうか提案され、審議の結果、今後も継続的に実施していくこととなった。

11) 第 2 回日本周産期精神保健研究会後援名義使用許可願について（仁尾理事長）

仁尾理事長より、資料に基づき、第 2 回日本周産期精神保健研究会後援使用許諾があつ

たことが報告され、承認された。

12) 禁煙宣言について (仁尾理事長)

仁尾理事長より、資料に基づき、日本外科学会では禁煙活動に取り組むための禁煙宣言を現在作成していることが報告され、日本小児外科学会も足並みを揃え、禁煙宣言を作成することが提案され、国際広報委員会にて草案を作成することが承認された。

13) 臓器移植システム委員会提言について (仁尾理事長)

仁尾理事長より、資料に基づき、臓器移植関連学会協議会からの臓器移植システム委員会提言に関する諾否確認があったことが報告され、審議の結果、承認することとなった。

14) 次回定例理事会の日程の確認について

次回理事会は平成27年5月27日(水) 10:00~14:00 神戸国際会議場にて開催することが確認された。

理事長 _____

理事 _____

理事 _____